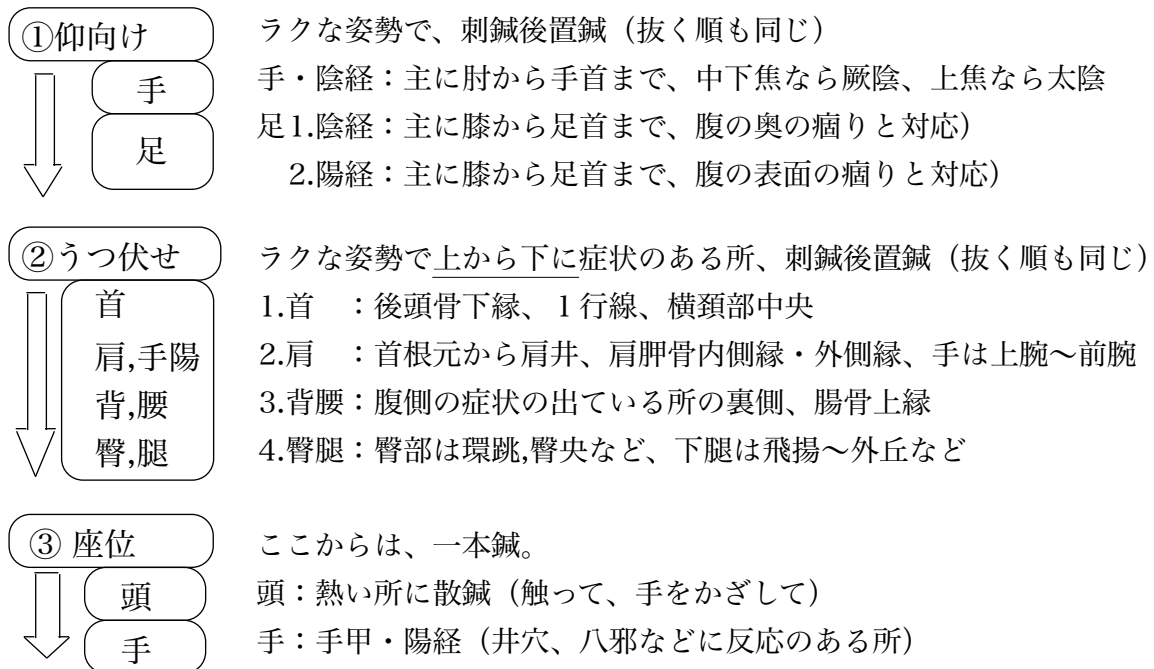


[11] 置鍼法への応用

(1) 基本的に

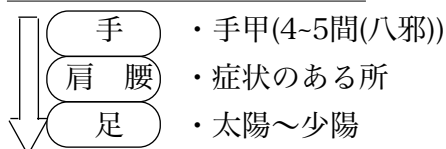
- ① 刺鍼時も抜鍼時も「刺鍼の3原則」を守る
刺鍼の3原則：1.手足に引く、2.陽に引く、3.下に引く
- ② 浅鍼で深い所に響かせたい場合には、刺鍼時に回旋術
- ③ 表位など熱い所には、散鍼してから置鍼
- ④ 無理のない姿勢で置鍼する（クシャミなど出そうな場合は声を掛けてもらう）
- ⑤ 刺鍼時と抜鍼時に鍼の本数を数えるのを習慣にする

(2) 慢性期の全身調整の手順



(3) 簡便法の手順……置鍼中に、灸や灸頭鍼を組み合わせてもよい

1. 肩・腰 ラクな寝方で



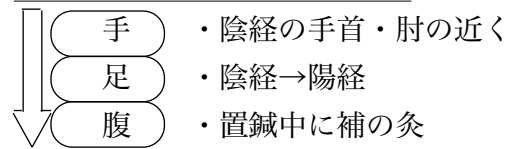
・抜く手順は、頸肩背腰足→手甲

☆補の灸頭鍼との組み合わせは、効果大

※この手順で、円皮鍼、皮内鍼も可

（ツボ取りには提鍼などを使うとよい）

2. 養生,体質改善 仰向けで



・抜く手順は、手陰→腹→足陰→足陽経

抜鍼後、手の指端の灸で終わるとよい

（目覚まし効果なので、寝られる場合は省略）

※この手順で、円皮鍼、皮内鍼も可（自己養生にも）

3. 手足の肘膝から先に円皮鍼：自己養生……簡便法の手順で、温灸や操体法も併用